

M 情報

2019.2

酪農経営において切っても切れない問題の1つが乳房炎です。

乳房炎は乳腺組織に微生物が侵入して起こる炎症性疾患です。乳房炎の原因菌として黄色ブドウ球菌 (*Staphylococcus aureus* :SA)、無乳性レンサ球菌 (*Streptococcus agalactiae* :SAG)、マイコプラズマ、SAG以外のレンサ球菌 (Other streptococci :OS) ※1、コアグララーゼ陰性ブドウ球菌 (Coagulase-negative staphylococci :CNS)、大腸菌 (*Escherichia coli* :E.coli)、クレブシエラ、緑膿菌、酵母様真菌、プロトセカが主要菌種として知られています。その他にはバチラス、ツルペレラ (アクチ)、コリネバクテリウム、アスペルギルス、ノカルジアなどもあります。

(※1 弊社の乳汁検査では SAG もまとめて OS としています。)

乳房炎が疑わしい場合は、一般症状 (乳量低下、食欲低下、体温上昇など) や、乳房の状態 (腫脹、損傷、発赤・紫斑、熱感、疼痛、硬結感など) と共に乳汁性状の確認を行った上で P.L テスターを使用した検査を行います。P.L テスターで反応がある場合は該当乳房の乳汁を採材し、各農場で培養 (オンファームカルチャー) する又は検査機関 (NOSAI や弊社など) に依頼するか、診療を依頼するのが一般的な流れになると思われます。

オンファームカルチャーを実施している農場の多くは弊社でも使用しているイージーメディア 2 という培地を使用していると思います。イージーメディア 2 は 2 つの培地で構成されており生える培地と生え方により、ある程度菌種を同定することが出来ます。

大腸菌、クレブシエラはコロニーの色で容易に判断できますが、SA や CNS、OS 等の判断に悩んだことはないでしょうか？そこで来月の M 情報では写真付きで細菌の同定についてお伝えしたいと思います。